グループホームみのりの里コスモス
（別紙4）　　2019　年

# 1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 4270201819 | | |
| 法人名 | 医療法人　梶田医院 | | |
| 事業所名 | グループホーム　みのりの里　コスモス | | |
| 所在地 | 長崎県佐世保市南風崎町１１９－４ | | |
| 自己評価作成日 | 令和元年10月1日 | 評価結果市町村受理日 | 令和2年1月17日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/42/ |

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人　福祉総合評価機構 |
| 所在地 | 長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内 |
| 訪問調査日 | 令和元年11月7日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりがいつまでも自分らしい生活を送れるように、職員は理念を共有し、傾聴を大切にしながら、その人のペースや好み、状態に合わせた個々の支援に取り組んでいます。人生の最後の時までご本人らしく過ごしていただけるように、ご本人やご家族の思いに寄り添いながらの支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

管理者は、今しかできないこと、家族の大切さについて家族に伝えており、外出、外食、毎月自宅に泊まるなど、利用者は家族との時間を楽しんでいる。また、各利用者の生活状況を写真を添えて送るコスモスだよりは好評を得ている。母体医院からの毎日の往診、緊急時の24時間体制は、本人・家族、職員の安心、信頼に繋がっている。数多く看取り支援を経験し、元気なうちに本人の思いや最期の希望等を聞き、本人・家族の思いに寄り添う支援に努めている。介護計画は、まず本人がどう生活していきたいか意向を尋ね、家族の希望を聞き、職員にどうケアしたいかを尋ねるケアシートと担当する職員が作成するアセスメント表を基に作成している。読書や日記、新聞の音読支援等一人ひとりにとっての日課も続けており、利用者本人の意向と尊厳を重視し、いつまでも自分らしくあり続けられるよう寄り添っている事業所である。

## Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25） | | 1. ほぼ全ての利用者の |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38） | ○ | 1. 毎日ある |
| | | | 2. 数日に1回程度ある |
| | | | 3. たまにある |
| | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | ○ | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19） | | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | ○ | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20） | | 1. ほぼ毎日のように |
| | | | 2. 数日に1回程度 |
| | | ○ | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4） | | 1. 大いに増えている |
| | | ○ | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12） | | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | ○ | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | ○ | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどできていない |

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員全員で、理念を共有し、理念に基づいたケアを心がけている。 | 法人理念「実りたたえる稲穂のように　いつまでもその人らしくあり続ける　人生を送る」を玄関、スタッフルーム等に掲示し、周知を図っている。管理者は、職員に利用者の自立した日常生活の助けとなり、過介護にならないよう助言している。職員は日々、理念に沿ったケアに取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の清掃活動への参加やこども園との定期的な交流、避難訓練時には地域の方の参加もある。 | 地域情報は市報、町内会長や民生委員、近隣在住職員から得ており、地域清掃前の空き缶拾いや公民館での防災講話に参加している。利用者と一緒に地域行事に参加したり、定期的に保育園児との交流がある。地域商店の食材配達や訪問美容、近隣との挨拶等、日常的に交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 清掃活動に参加している。外出時には地域の方に挨拶や声掛けをして交流をしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回会議を開催し、行事や利用者の状況を報告し、意見交換を行っている。地域の方の気づきや情報の共有の場にもなっている。 | 年6回、法人内3事業所合同で開催している。各ユニットの近況報告後、構成員の気付きや質問等出ており、議事録から活発な意見交換の様子が確認できる。会議での意見や提案、情報等サービス向上に活かしている。ただし、現在、家族代表の参加はできていない。 | 事業所の現状、取組等を運営推進会議内で話し合いを重ねる上で、家族の意見は重要と思われる。家族への運営推進会議の周知、参加への呼びかけ等、工夫・検討が望まれる。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市の担当者と必要に応じ連絡を取り合い相談や助言を頂いている。また、研修会にも参加している。 | 書類等手続きや運営上で分からないことは、管理者が窓口へ出向き相談している。定期的に行政担当職員が利用者を訪ねている。地域包括支援センターとは日頃から連絡を取り合っており、包括主催の勉強会に民生委員と一緒に参加するなど協力関係を築くよう努めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 施設内で身体拘束の勉強会をしたり、外部の研修にも参加している。勉強した内容はミーティング等で研修報告を行い確認している。 | 身体拘束適正化の指針を作成している。運営推進会議の他、3ヶ月に一度法人内勉強会後に身体拘束等適正化委員会を実施しており、職員が自身のケアを振り返る機会となっている。ミーティングで拘束のないケアについて話し合っており、日中、玄関の施錠はなく利用者の行動等見守っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 施設内での勉強会や外部の研修に参加し、職員全員が虐待防止について学び、ミーティング等で確認している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護や成年後見制度についての研修があれば、参加し理解を深める様にしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時の説明と入居後も必要に応じて説明や意見を伺い、理解を得る様に努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時には意見を聴き対応し、運営推進会議録を提示している。玄関には意見箱を設置している。 | 重要事項説明書に、苦情相談窓口を明記し、利用開始時に意見箱の所在と共に説明している。職員は、ホームだよりや面会時などで、利用者の様子を伝えながら、家族がなんでも相談できるような雰囲気づくりに努めている。携帯電話の持ち込みや外出支援など、本人の希望を反映できるよう検討し、支援している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員の意見や気づきを会議等で話し合う機会がある。 | 職員は、毎月のミーティングや日々の申し送りなどで、意見や提案を話す場がある。職員の意見が出やすいよう、司会が話題を回したり、記入式で意見を汲むなどの工夫がある。職員の意見から、希望シフトや昼休み確保など、職員の働きやすい環境に反映している。シャワーチェアや血圧計など備品購入も職員の意見を取り入れている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | スキルアップややりがいを持って働ける労働環境の整備に努めている。労働条件等を話しやすい環境作り。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修を受ける機会を設けたり、学びたいことや興味がある事を聴いている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡協議会の会議や、研修、交流会への参加をしている。定期的に他施設の職員との交流会の機会もある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人とコミュニケーションを取りながら生活歴を把握し、傾聴に努め安心して頂ける様に努める。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の要望や不安な事困りごとを伺い改善できるよう考慮し、職員間で情報の共有も行う。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人や家族の思いや要望を聴き意見交換を行いながら、必要な支援を見極める様に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 生活の中で本人とのかかわりを持ち過ごしやすい環境を心掛け、ひとりひとりのやりたいことや出来ることを取り入れて、役割ややりがいを持って生活出来る環境作りを心掛けています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時には本人の日々の近況などを伝え、家族と共に過ごす時間を大切にしてもらっている。また、家族との外出や外泊等の支援協力も得ている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族や親せき、友人や知人の方々が面会に来られている。家族の協力を得て、墓参りや法事などにも出かけられている。 | 入居前の面談時、本人と家族から生活歴を聞き取っている。人や場との縁が切れないよう、友人や生徒、近所の人などの訪問があった時、次回も訪問しやすいよう声掛けしている。家族の協力で、馴染みの美容室や自宅への出掛ける利用者もいる。手紙を書いたり電話で話すなど、利用者の思いに沿うよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | フロアーで過ごしていただくため、お茶の時間やレクレーションなど利用者同士のかかわりを持ってもらうように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 情報交換や相談があれば対応している。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | （9） | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 傾聴で得た情報を皆で共有し、本人の思いを知り、支援に活かすようにしている。 | 職員は、新聞を一緒に読んだり居室で近所の様子を話すなど、利用者が和むよう配慮し、会話から一人ひとりの思いの把握に努めている。会話が困難な場合は、家族の協力を得ながら、これまでの様子を踏まえ本人本位に検討している。職員が得た情報は、口頭で申し送ったり、ケース記録や申し送りノートを活用し情報共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人や家族の話を傾聴し、その人らしい生活が続けられるように、職員間で情報を共有し、支援に活かすようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の状態や表情を観察し変化に早めに気づき職員間で協議し支援に繋げている。 | | |
| 26 | （10） | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月のカンファレンスや定期的にモニタリングを実施し、入居者の現状に沿った介護計画を立てている。 | 計画作成時、ケアマネージャーは先ず本人に生活の意向を尋ね、家族の希望を聞き取っている。見直しは、各職員がケアシートで支援目標等出し合い、担当職員のアセスメント表を基に作成し、利用者の思いと現状に配慮している。また、家族の同意を得ている。職員は、日々支援内容の評価を記録し、毎月ミーティング時に検証している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の変化をケース記録や日誌へ記入し、口頭でも伝えて情報を共有し、どの職員も同じ支援が出来る様に努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族の状態や意向に応じて、柔軟な支援を心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の出来事等に関心をもち交流が出来る様にしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 主治医や専門医との連携で受診や往診を行い、情報交換を行っている。家族に経過報告等を行い意向等を伺っている。 | かかりつけ医は本人・家族の意向に沿い、毎日の母体医院からの往診と最期まで看てほしいとの願望から主治医を変更している。専門医の通院には家族が付き添っており、受診内容はケース記録に記載し、職員間で共有している。緊急時は母体医院に連絡を取ることとしており、利用者が適切な医療を受けられるよう支援に努めている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 利用者の体調の変化や気づきは早めに看護職に相談し、助言を貰っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医療機関との情報交換や共有をして、早めの施設復帰に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に説明し、状態に変化があれば家族に報告し共に考え、変更を視野に入れて協議している。本人の思いを傾聴し家族と共にその思いを受け止めている。 | 重度化した場合と看取りに関する指針を明文化し、契約時に家族へ説明し同意の署名を得ている。状態の変化に応じ、医師や家族と話し合い、意向を確認している。多数の看取り支援経験から、職員は本人が思いを表出できるうちに傾聴に努め、本人・家族の意向に沿った最期が迎えられるよう支援している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時の対応マニュアルを基に、発生時にはすぐに対応できるように備えている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。<br>また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。 | 定期的に避難訓練を実施し、研修にも参加している。有事の際には地域の方の協力をお願いしている。 | 年1回消防署立会いの下、地域住民も参加し、夜間想定の火災避難訓練を実施している。コスモス防災マニュアルに沿い2ヶ月毎に自主訓練を行っており、火元確認、初期消火、避難誘導のほか、台風、大雨等自然災害時の避難訓練や緊急連絡網での伝達を確認している。非常時持出品として利用者情報、食料等の備蓄品を整備している。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 尊厳を大切にし、言葉使いや対応に気を付けている。職員間で注意できる関係作りに努めている。 | 利用者を敬う言葉遣いで、利用者が自己決定しやすい言葉を掛けている。居室ドアは必ず閉め、プライベートエリアへの配慮がある。介助時はさりげなく言葉を掛け、利用者の誇りを損ねないよう取り組んでいる。職員は守秘義務を順守している。個人情報は事務所で管理し、写真も個別に対応している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者の思いを傾聴し理解をして、自己決定が出来る様に手助けをしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その人らしく安心してゆっくりできる居場所や時間の提供に努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ひとりひとりのペースに合わせ、整容の声掛けを行っている。希望により、美容師の訪問がある。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 好みを聴いて献立を決めたり、食材の下準備や調理法などを教えていただく事もあり、楽しい時間の共有になっている。 | 職員は、地元の商店から食材を調達し、利用者の嗜好を基に献立を作成している。健康に配慮し、野菜は5種類以上使っている。調理の下準備や梅干しづくりなど、利用者はできる範囲で参加している。普段作らない献立は、外食先で利用者の希望を叶えている。季節行事を食事で楽しめるよう毎回工夫し、皆で食事を楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 体調や食事の変化に配慮した、一人ひとりに応じた栄養管理や水分量の提供に努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアの言葉かけをそれぞれの、その方のタイミングで行い、出来ない所は声掛けや介助を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表により排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援を個々に行っている。 | 居室トイレで、座位による排泄ができるよう職員は排泄を支援している。利用者の状況によって、2人で介助している他、排泄チェック表で支援状況を共有している。職員は、利用者が快適に過ごすことができるよう、排泄誘導のタイミングやパッドの種類など、排泄チェック表を基に、検討し支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 適度な運動と水分補給や乳製品を活用し、自然排便に努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | その時の体調や気分に合わせ、本人を尊重した無理のない入浴を心掛けている。季節を楽しめる入浴となるように工夫している。 | 週2回、入浴日を設定している。車椅子利用者の場合、2人介助である。着替えを脱衣所に準備し、入浴日以外もいつでも入浴できる。入浴や清拭は、肌を傷めないよう、さらしを使用している。薔薇湯や柚子湯、入浴中の会話など工夫し、利用者にとってリラックスできる入浴介助となっている。ただし、支援状況に記録漏れがある。 | 支援状況を共有し、より良い介護支援を行うためにも、記録方法について工夫検討が望まれる。 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 本人が安心して休息や日々の日課を取り組める場所を確保し、レクレーションへの参加を促し、安眠の支援に努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬管理は薬情を把握し、複数回のチェックを行っている。情報の共有を職員間で行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ひとりひとりの楽しみを見つけ、職員間で共有し、レクレーションに繋げている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 年間行事に外出や外食の機会がある。家族と出掛けられるように、、協力を得ている。 | 季節や利用者の健康に配慮しながら、外出を支援している。買い物やドライブ先など、利用者の希望を取り入れており、気分転換に屋上に上がることもある。利用者毎の希望の外出先は、家族の協力を得ている。外食や季節の風景を見に出掛けたり、皆での外出を楽しんでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 小額を手元に持つことで安心されている方もおられる。ほとんどの方は家族が管理している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 施設の電話や携帯電話で友人や家族と連絡が取れるよう、本人や家族の希望に添って支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ひとりひとりの心地よい居場所の提供と安全への配慮を工夫し、環境整備を行っている。 | リビングは自然光が明るく、前面に広がる田園風景から季節の移ろいを感じることができる。利用者は畳スペースやソファで寛いだり、歌や季節ごとの作品作りを楽しんでいる。掃除や換気は毎日職員が行い、冬場の感染症対策として手すり等の消毒回数を増やしており、快適に過ごせるよう努めている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 入居者同士の関係を考え、時間や場所等の環境を整備している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人の思い入れや使い慣れた物の持込みや本人が好む設えを考慮しながら、安全に配慮し意向の調整を行っている。 | 使い慣れたものや思い入れのあるもの等の持ち込みに制限はなく、家族写真や布団、ラジカセやテレビ、携帯電話等自由に持ち込んでいる。各居室にはアコーディオンカーテンで仕切られたトイレを設置し、利用者が気兼ねなく快適に過ごせるような配慮が窺える。職員は毎日、掃除・換気を行い、心地よい居室となるよう支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ひとりひとりのできること、出来ないことを把握したうえで、本人の思いと安全に配慮した環境整備を行い、自立した生活の継続を支援している。 | | |